

令和2年度とくしまリカレント教育推進事業 「技術者のためのリベラルアーツ講座・英語編」実施報告

蔵本技術部門 管理運営グループ
鍵 絵里子 (KAGI Eriko)

篠原 直美 (SHINOHARA Naomi)

1. はじめに

徳島県では、あらゆる世代の人々が意欲・能力をいかして活躍できる社会の実現を目指して、徳島県立総合大学校本部内に「とくしまリカレント教育支援センター」を開設し、高等教育機関と連携してリカレントプログラムを実施している。昨年度は、徳島大学との連携により「AIプログラミング基礎講座」等3講座を開催した。

筆者は、技術者の学びなおしの場合として、令和2年度「とくしまリカレント教育推進事業」リカレントプログラムに基本コース「技術者のためのリベラルアーツ講座・英語編」を提案し、受託事業費を獲得した。ここでは、オンラインにて実施した本講座の内容について報告する。

2. 実施内容

2.1 目的

教育研究機関の国際交流においては、外国人研究者や留学生の受け入れが進み、英語での説明・指導が必要な場面が増加している。機器や施設の利用に関する指導を行う技術者にとっても、インバウンド対応としての英語力が必須となっているが、特に地方においては、科学技術に特化した英語研修の機会が得られにくい現状がある。本講座では、技術支援・指導に必要なレベルの英会話、英文の書き方、読み方等を実践的かつ総合的に習得させることを目的として、技術者の英語コミュニケーション能力の向上を図ることとした。

2.2 募集要項および広報

実施回数：全8回16時間

開講期間：令和2年11月2日～12月21日の
毎週月曜配信

実施形式：Web(オンデマンド配信)

対象：徳島県内の在職者で技術職にある方

参加費：2,000円

募集人数：10名

以上の項目を記載した受講生募集チラシ(図1)を学内および学外(鳴門教育大学, 阿南工業高等専門学校, 徳島県工業技術センター)へ送付するとともに、徳島県立総合大学校HPおよび徳島大学HPに募集内容を掲載し広報を行った。

募集人数を超える応募があった場合、リカレント教育推進事業の趣旨から、応募時の英語学習状況が「再開」に該当する者を優先することとしていたが、応募者が10名であったため選考は行わなかった。



図1 募集チラシ表面

2.3 プログラム

当初は対面による講義および演習を企画していたが、コロナ禍の状況を考慮し、オンデマンド形式のWeb講義により実施することとした。コミュニケーションツールとしての英語をオンデマンド配信でどのように学習できるのか、依頼した講師からも懐疑的な意見があったが、全国的に高等教育機関の授業がオンライン化の渦中にあったことも後押しとなり、課題提出とフィードバックを短いスパンで繰り返して双方向学習を担保するという方

針で了承が得られた。

基礎の学びなおしから実践的なアウトプットにつながる学習に特化し、文法の振り返りや語彙から始め、中盤で和訳英訳やメールのライティング、終盤の科学技術に関する時事英語まで、3名の講師によるオムニバスならではの多彩なプログラム(表1)を決定した。

表1 プログラム一覧

	内 容	講 師
第1回	ブラッシュアップ文法 (1) 時制	山田真穂 先生
第2回	ブラッシュアップ文法 (2) 助動詞	
第3回	ブラッシュアップ文法 (3) 関係詞・分詞	
第4回	英文和訳・要約	梅村綾子 先生
第5回	和文英訳・要約	
第6回	ライティング演習	
第7回	科学時事 (1)	三宅恵美 先生
第8回	科学時事 (2)	

2. 4 実施状況

筆者は、講座のコーディネーターとして、受講生と講師をつなぐ媒介者の役を担い、課題や質疑の受け渡し等の運営全般を行った。

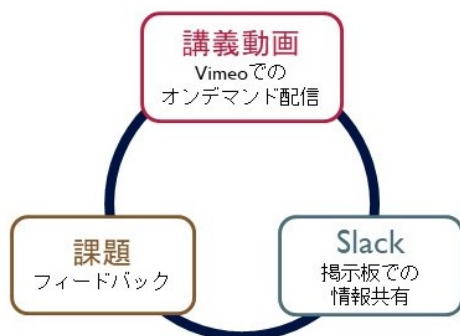


図2 受講のイメージ

受講生には、ビジネスチャットツール Slack に登録してもらい、配信案内、課題配布・提出・返却、質問受付等、掲示板形式により講座情報を共有する場を設定した(図2)。連絡事項だけでなく、受講の動機や目標を問いかける、コーディネーターからコメントを返すなど、受講生同士が意識を共有し、学習のモチベーションを維持できるよう努めた。また、開講期間の中盤にオンライン交流会@Zoom

を開催し、受講生間の交流を図るとともに、講座運営への要望等のヒアリングを行った。

講義動画の作成方法は講師によって異なり、パワーポイントに音声を記録する方法、Zoom あるいは Microsoft Teams での二人会議を録画する方法を用いた。講師の収録後、Movie Maker でオープニング等の編集作業を行い、1回分の MPEG ファイルに変換した。動画配信には、Vimeo の Plus プランを契約した。技術支援部 HP に本講座の専用サイトを開設し、Vimeo の動画リンクを埋め込み、受講生と講師に動画のパスワードを配付して視聴できるようにした。

2. 5 受講後アンケート

受講後アンケートに9名から回答があり、内容の満足度および役立ち度について、8割以上の回答者から「非常に良かった」または「良かった」との評価を得た。これらはひとえに、受講生の熱意と講師の丁寧な指導によるもので、直接の対面がかなわなかったにもかかわらず一定の成果が得られたことに、コーディネーターとして感謝の念に尽きない。

自由記述欄では、ライティング演習におけるメール文の構成と添削、科学時事における同時通訳について、有意義かつ貴重な経験であったとの意見が多くみられた。また、基礎である文法の重要性を再認識した、との意見も複数あった。

ただし、社会人が自己学習に取り組むには、週1回2時間の講義および課題は分量が多すぎたこと、また実施スケジュールが繁忙期である年末にかかり受講生に負担をかけてしまったことは反省事項である。

3. さいごに

本講座のタイトルを「技術者のためのリベラルアーツ講座」としたのは、技術者が専門分野を問わず身につけておくと役立つ英語を、学習から離れていた方が学びなおす交流の場になればという思いからである。英語に限らず、科学技術に携わるうえで基盤となる知識や学習環境を技術者同士で共有し、今後のスキルアップにつなげていきたい。